

平成15年度第1回支所長会議の概要

平成15年度第1回支所長会議が平成15年12月1日(月)に当所大会議室において開催された。会議には所長、企画調整部長、総務部長、総合防疫研究官、各研究部長(疫学研究部については代理・上席研究官)、各センター長、各支所長(北海道支所については代理・臨床生化学研究室長)、七戸研究施設長、研究企画科長及び主任研究官、研究交流科長及び主任研究官、情報資料課長、衛生検査科長、実験動物管理科長、庶務課長及び課長補佐、会計課長及び課長補佐が出席した。また、平成15年10月1日に新組織となった農業・生物系特定産業技術研究機構の専門研究担当理事として着任された横内理事が挨拶のため出席した。その概要は以下の通りである。

1. 所長挨拶

清水所長より機構新組織への改革、中期計画中間点としての現状をふまえた情勢の概要、今期中期計画達成に向けての業務点検及び次期中期計画の検討体制確立等の方針についての説明があった。

2. 総務部情勢報告

齊藤総務部長より平成15年度昇格・特別昇給の報告、平成16年度予算財務省要求の概要についての説明があり、質疑応答がなされた。

3. 理事挨拶

横内専門研究担当理事より着任の挨拶と機構組織及び研究情勢についての説明があった。

4. 企画調整部情勢報告

谷口企画調整部長より機構中期目標・中期計画、平成15年度推進会議及び機構評価委員会、研究成果情報、平成16年度プロジェクト研究課題検討状況、今後の研究機械整備、独立行政法人の評価基準、平成14年度機構評価結果及び平成15年度課題評価の視点、平成15年度試験研究成績・計画検討会についての説明があり、討議がなされた。

5. 研究部等における運営上の問題点

各研究部、センター、支所、施設長より各研究部等における運営上の問題点が示され、討議がなされた。

6. 重要検討事項

各研究部、センター、支所、施設長より今後の研究推進方向、プロジェクト研究素材等の案が示され、討議がなされた。
(研究企画科)



牛海綿状脳症(BSE)診断技術コースの概要

1986年に英国で発生した牛海綿状脳症(以下「BSE」)は、我が国においても2001年に発生が確認され、社会的に極めて大きなインパクトを与えた。食肉の安全性確保の観点から、BSEに関する診断・防疫体制の整備は世界共通の課題であり、生産から流通に至る各段階での対策が各国で講じられる必要がある。動物衛生研究所は、これまで家畜保健衛生所のBSE検査技術の向上を図るため、農林水産省家畜衛生研修会等で協力してきた。今回、国際獣疫事務局(OIE)のBSE診断リファレンスラボラトリーとして国際的に認定された動物衛生研究所の最新知見と技術をさらに活用するため、インドネシア、中国、カンボジア、マレーシア、ラオス、フィリピン、タイ(2名)、ベトナム、ミャンマー(計9カ国10名)のアジア地域各国獣医学関係研究所の研究者及び行政担当者を対象としたJICA「BSE診断技術コース」の開催に協力した。

研修は平成15年11月5日から11月21日まで開催され、動

物衛生研究所では、このうち11月17日から21日の間、「剖検と採材」、「ELISA診断法」、「ウエスタンブロット診断法」、「病理組織学的及び免疫組織化学的診断法」等の実習及び「BSEの疫学」の講義が行われた。参加者は目的が明確な研修への応募者であるためか皆熱心に取り組み、修了後の評価会でも有意義な研修であったとの感想が多かった。期間が短いこともあり、技術の十分な習得にまでは至らず、また、得た知識・技術が各国での畜産現場に活用あるいは伝達されるのが等については今後の課題として残されているものの、BSEに関する知識の習得及び診断技術の習得による本研修が、アジアの人材育成に寄与することが今後とも期待される。

最後に、本研修を企画・実施された農林水産省、JICA、JICE及び研修の指導を引き受けていただいたプリオン病研究センター関係者をはじめとする当所の職員に深謝する。

(研究交流科長 山中晴道)